２０２３年（令和５年）　７月１８日　火曜日

東奥日報　１３面　掲載

第105回 全国高校野球 青森大会

第４日

【弘前工―八学光星】4回裏、八学光星無死二塁で2点本塁打を放つ中澤恒＝六戸メイプル

光星主軸 きっちり仕事

弘工 要所で一本出ず

▽2回戦（六戸メイプル）

弘前工	2	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
八学光星	1	4	0	3	0	0	0			1	2	×					15

（弘）成田晴、奈良岡―工藤湊
（八）岡本、洗平―藤原
▽本塁打　中澤恒、藤原（八）
▽二塁打　成田晃2（弘）長谷、西尾（八）
▽暴投　成田晴2（弘）岡本、洗平（八）▽捕逸　工藤湊（弘）

【評】八学光星は2点を追う二回、1死満塁の場面で3番中澤恒が同点の適時打を放つと、4番長谷がセンターオーバーの2点適時打で逆転に成功。四回に中澤恒、八回に5番藤原がそれぞれ2点本塁打を放つなど上位打線がしっかり点に絡み、勝利を引き寄せた。

弘前工は八学光星主戦岡本、2番手の洗平を攻め立てたが、要所でもう一本が出なかった。

◆同点の適時打、2点本塁打など4打点を挙げた八学光星の中澤恒主将（3年）　相手先発は直球が速いため、変化球を狙った。二回の同点適時打、四回の2点本塁打は、ともにインコースのスライダー。チームの投手陣に緊張が見られ、厳しい展開が続いたが、夏の初戦を突破できてほっとしている。一戦一戦確実に勝つよう、泥くさく戦っていきたい。

◆先制打、捕手としてもチームを支えた弘前工の工藤湊（3年）　先制の場面では、絶対にランナーをかえそうと直球一本に絞っていた。うまく打てた。強豪の八学光星を相手に、みんなでつないで点を取れた。全部出し切ったので、後悔はない。（主戦の）成田晴は変化球を外野に持っていかれて失点したが、真っすぐは力があり、良かった。

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです